

古文ドリル：「なり・たり」の識別（形容動詞）100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「なり」「たり」6つの正体

「なり」「たり」は、形容動詞の活用語尾にも、助動詞にもなります。直前の語の形で見分けます。

種類	直前の形	例
① 形容動詞ナリ活用	和語の状態語幹＋なり・なる・に	静かなり
② 形容動詞タリ活用	漢語の語幹＋たり・たる	堂々たり
③ 断定の助動詞「なり」	体言・連体形＋なり（～である）	夢なり
④ 伝聞推定の助動詞「なり」	終止形（ラ変は連体形）＋なり（～らしい・～という）	鳴くなり
⑤ 完了・存続の助動詞「たり」	連用形＋たり（～た・～ている）	立ちたり
⑥ 断定の助動詞「たり」	体言＋たり（～である／漢文訓読調）	大将たり

識別の鉄則

- 「なり」の直前 → 和語の状態語幹＝形容動詞、体言・連体形＝断定、終止形＝伝聞推定。
- 「たり」の直前 → 漢語の状態語幹＝形容動詞、連用形＝完了・存続、体言＝断定。
- 「に」も形容動詞ナリ活用の連用形（静かに）。格助詞「に」と混同しない。

🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

コツ① 「なり」は直前の品詞で3択

- 静か・あはれなど状態語幹＋なり → 形容動詞ナリ活用。
- 体言・連体形＋なり → 断定（～である）。
- 終止形＋なり → 伝聞推定（音・うわさ。「鳴くなり＝鳴いているようだ」）。

コツ② 「たり」も直前で3択

- 漢語（堂々・粛々）＋たり → 形容動詞タリ活用。
- 連用形＋たり → 完了・存続（～た・～ている）。
- 体言＋たり → 断定（～である）。

コツ③ ラ変だけ例外

- ・ 伝聞推定「なり」は終止形接続だが、**ラ変型には連体形**に付く（「あるなり」「ざるなり」）。

よくある引っ掛け

- ・ 「静かに」の「に」を格助詞と誤る（形容動詞連用形）。
- ・ 「鳴くなり（伝聞推定）」と「鳴く（断定）」の混同 → 直前が終止形か連体形か。
- ・ 漢語＋たりは形容動詞、連用形＋たりは完了。直前を必ず確認。

採点表

各セクションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

6種類を代表的な形で純粹に識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

山里は静か**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説**：「静か」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「静かだ」。

Q2. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これは夢**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説**：体言「夢」＋なり。断定で「夢である」。

Q3. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

鳥の鳴くなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「鳴く」＋なり。音による推定で「鳴いているようだ」。

Q4. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

軍勢堂々たり。

答え：形容動詞タリ活用 **解説：**「堂々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「堂々としている」。

Q5. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

門に人立ちたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「立ち」＋たり。存続で「立っている」。

Q6. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その人、大将たり。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「大将」＋たり。断定（漢文訓読調）で「大将である」。

Q7. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

庭はのどかなる夕べなり。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「のどか」は和語の状態語幹。語幹＋なる（連体形）で形容動詞ナリ活用。「のどかな」。

Q8. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

かの人、法師なり。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「法師」＋なり。断定で「法師である」。

Q9. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

笛の音すなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**サ変終止形「す」＋なり。音による推定で「笛の音がするようだ」。

Q10. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

花咲きたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「咲き」＋たり。存続で「咲いている」。

Q11. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

月清らかに照る。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「清らか」は和語の状態語幹。語幹＋に（連用形）で形容動詞ナリ活用。格助詞「に」ではない。「清らかに」。

Q12. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

海原漫々たり。

答え：形容動詞タリ活用 **解説：**「漫々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「果てしなく広がる」。

Q13. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これなむ都なる。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「都」＋なる（連体形、係助詞「なむ」の結び）。断定で「都である」。

Q14. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

風吹くなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 解説：四段終止形「吹く」＋なり。推定で「風が吹いているようだ」。

Q15. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

文を書きたる人。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：連用形「書き」＋たる（連体形）。存続で「書いている（書いた）人」。

Q16. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

あはれなりける事かな。

答え：形容動詞ナリ活用 解説：「あはれ」は和語の状態語幹。語幹＋なり（連用形、下に「けり」）で形容動詞ナリ活用。「しみじみとしていた」。

Q17. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

我は武士たり。

答え：断定の助動詞「たり」 解説：体言「武士」＋たり。断定で「武士である」。

Q18. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

軒に蜘蛛の巣かかりたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：連用形「かかり」＋たり。存続で「かかっている」。

Q19. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

あなたに人のあるなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 解説：ラ変「あり」は連体形「ある」に接続。伝聞推定で「人がいるようだ」。

Q20. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

滝の水、凜々たる音す。

答え：形容動詞タリ活用 解説：「凜々」は漢語の語幹。語幹＋たる（連体形）で形容動詞タリ活用。「凜々とした」。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

連体形接続の断定「なり」、終止形接続の伝聞推定「なり」を中心に確認する。

Q21. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

雪はなはだ白し、いと清げなり。

答え：形容動詞ナリ活用 解説：「清げ」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「清らかである」。

Q22. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

この所は昔の都なり。

答え：断定の助動詞「なり」 解説：体言「都」＋なり。断定で「都である」。

Q23. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

谷の方にて水の音すなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 解説：サ変終止形「す」＋なり。音による推定で「水の音がするようだ」。

Q24. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

軍勢肅々たり。

答え：形容動詞タリ活用 解説：「肅々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「静かに整然としている」。

Q25. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

道に人倒れたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：連用形「倒れ」＋たり。存続で「倒れている」。

Q26. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

彼は一国の主たり。

答え：断定の助動詞「たり」 解説：体言「主」＋たり。断定で「主である」。

Q27. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

姫君いとあてやかなり。

答え：形容動詞ナリ活用 解説：「あてやか」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「上品である」。

Q28. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これは亡き人の形見なり。

答え：断定の助動詞「なり」 解説：体言「形見」＋なり。断定で「形見である」。

Q29. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

鐘鳴るなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 解説：四段終止形「鳴る」＋なり。音による推定で「鐘が鳴っているようだ」。

Q30. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

紅葉散り敷きたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：連用形「散り敷き」＋たり。存続で「散り敷いている」。

Q31. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

池の面、平らにして波もなし。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「平ら」は和語の状態語幹。語幹＋に（連用形）で形容動詞ナリ活用。「平らで」。

Q32. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その国の守たる人。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「守」＋たる（連体形）。断定で「国守である人」。

Q33. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

山のあなたに鹿鳴くなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「鳴く」＋なり。音による推定で「鹿が鳴いているようだ」。

Q34. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

庭に雪積もりたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「積もり」＋たり。存続で「積もっている」。

Q35. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御簾の内、はなやかなる気配す。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「はなやか」は和語の状態語幹。語幹＋なる（連体形）で形容動詞ナリ活用。「華やかな」。

Q36. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これは古き歌なり。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「歌」＋なり。断定で「歌である」。

Q37. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

波の音聞こゆ**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**下二段終止形「聞こゆ」＋なり。音による推定で「波の音が聞こえるようだ」。

Q38. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

雲海茫々**たり**。

答え：形容動詞タリ活用 **解説：**「茫々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「広々としている」。

Q39. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

灯ともし**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「ともし」＋たり。存続で「ともしている」。

Q40. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

心ばへいとなだらか**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「なだらか」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「穏やかである」。

Q41. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

ここは海道**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「海道」＋なり。断定で「海道である」。

Q42. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

虫の声しめやかにして、いとあはれ**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「あはれ」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「しみじみとしている」。

Q43. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてする**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**サ変連体形「する」＋なり。断定で「するのである」。

Q44. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

遠くにて人騒ぐ**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「騒ぐ」＋なり。音による推定で「人が騒いでいるようだ」。

Q45. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

城門に兵満ち**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「満ち」＋たり。存続で「満ちている」。

Q46. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その振る舞ひ、王者**たり**。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「王者」＋たり。断定で「王者である」。

Q47. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

水草おぼろ**なる**月夜かな。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「おぼろ」は和語の状態語幹。語幹＋なる（連体形）で形容動詞ナリ活用。「おぼろな」。

Q48. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

雨降る**なり**、出で立ちがたし。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「降る」＋なり。音・気配による推定で「雨が降っているようだ」。

Q49. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

旗、林立したり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：サ変連用形「し」＋たり。存続で「林立している」。

Q50. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その声、清音凜たり。

答え：形容動詞タリ活用 解説：「凜」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「凜としている」。

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

「なり」の3択・「たり」の3択を、紛らわしい文脈で見分ける。

Q51. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

心のうち、いとのだやかなり。

答え：形容動詞ナリ活用 解説：「のだやか」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「のだかで穏やかである」。

Q52. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

ここは亡き宮の御所なり。

答え：断定の助動詞「なり」 解説：体言「御所」＋なり。断定で「御所である」。

Q53. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

谷の方にて人の語らふなり。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 解説：四段終止形「語らふ」＋なり。声による推定で「人が話しているようだ」。

Q54. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

大河洋々**たり**。

答え：形容動詞タリ活用 **解説：**「洋々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「広々としている」。

Q55. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

道のべに清水流**れたり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「流れ」＋たり。存続で「流れている」。

Q56. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

かれは一門の棟梁**たり**。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「棟梁」＋たり。断定で「棟梁である」。

Q57. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御心地い**とつれづれなり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「つれづれ」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「することがなく退屈である」。

Q58. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

あの山のあなたに住む**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「住む」＋なり。伝聞・推定で「住んでいるという／住んでいるようだ」。

Q59. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御階の前に梅咲**きたり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「咲き」＋たり。存続で「咲いている」。

Q60. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

容貌、端正**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説**：「端正」は漢語だが状態語幹として「端正なり」で用いられ、語幹＋なりで形容動詞ナリ活用。「端正である」。

Q61. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これぞ名高き滝**なる**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説**：体言「滝」＋なる（連体形、係助詞「ぞ」の結び）。断定で「滝である」。

Q62. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

庭の松に鶴**みたり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説**：上一段連用形「み」＋たり。存続で「とまっている」。

Q63. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

軍兵雲霞のごとく充満**たり**。

答え：形容動詞タリ活用 **解説**：「充満」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「満ちあふれている」。

Q64. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

たれそかれと問ふ**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説**：四段終止形「問ふ」＋なり。声による推定で「問うているようだ」。

Q65. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御けはひ、いとしのびや**かなり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「しのびやか」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「ひっそりとしている」。

Q66. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これは三位の中将殿**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「中将殿」＋なり。断定で「中将殿である」。

Q67. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

海人の小舟漕ぎ出で**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「漕ぎ出で」＋たり。存続・完了で「漕ぎ出している（出した）」。

Q68. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その身、出家の沙門**たり**。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「沙門」＋たり。断定で「沙門である」。

Q69. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御殿のうち、しめやか**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「しめやか」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「しっとりと静かである」。

Q70. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

軒のあたりに人の音**すなり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**サ変終止形「す」＋なり。音による推定で「人の物音がするようだ」。

Q71. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

床に書きもの広げ**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**連用形「広げ」＋たり。存続で「広げている」。

Q72. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

旗の文字、明々**たり**。

答え：形容動詞タリ活用 **解説：**「明々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「はっきりしている」。

Q73. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これは仮の宿**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「宿」＋なり。断定で「宿である」。

Q74. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

笛をいとめでたく吹く**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「吹く」＋なり。音による推定で「吹いているようだ」。

Q75. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御前に人々候ひ**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**ラ変連用形「候ひ」＋たり。存続で「控えている」。

Q76. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

谷風**すずやかに**吹く。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「すずやか」は和語の状態語幹。語幹＋に（連用形）で形容動詞ナリ活用。「すずやかに」。

Q77. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

彼は当家の家長**たり**。

答え：断定の助動詞「たり」 解説：体言「家長」＋たり。断定で「家長である」。

Q78. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

鶯の声**すなり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 解説：サ変終止形「す」＋なり。声による推定で「鶯の音がするようだ」。

Q79. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

池に蓮の花咲き満ち**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：連用形「咲き満ち」＋たり。存続で「咲き満ちている」。

Q80. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

山容雄大**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 解説：「雄大」は漢語だが状態語幹として「雄大なり」で用いられ、語幹＋なりで形容動詞ナリ活用。「雄大である」。

【第4部】入試レベル (Q81～Q100)

文脈の長い例文で、6種類を総合的に判断する。

Q81. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

夜もすがら、虫の音のみして、いとあはれ**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 解説：「あはれ」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「しみじみとしている」。

Q82. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

このわたりにはべりし、按察使大納言の御むすめ**なり**し。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「御むすめ」＋なり（連用形、下に「し」）。断定で「御娘であった」。

Q83. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

夜更けて、遠き寺の鐘**つくなり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「つく」＋なり。音による推定で「鐘をついているようだ」。

Q84. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

千騎万騎、野山に充満し、その勢ひ堂々**たり**。

答え：形容動詞タリ活用 **解説：**「堂々」は漢語の語幹。語幹＋たり（終止形）で形容動詞タリ活用。「堂々としている」。

Q85. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

御帳のうちに、人**臥したり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**四段連用形「臥し」＋たり。存続で「横になっている」。

Q86. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

かの清盛公、太政大臣**たり**。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「太政大臣」＋たり。断定（漢文訓読調）で「太政大臣である」。

Q87. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

月いと明かく、空のけしき気高く清げ**なるに**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「清げ」は和語の状態語幹。語幹＋なる（連体形）で形容動詞ナリ活用。「清らかな」。

Q88. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その家は、もと大臣の住み給ひし所**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**連体形「し（所）」を受ける体言「所」＋なり。断定で「所である」。

Q89. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

隣の家にて、人の泣く**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「泣く」＋なり。声による推定で「泣いているようだ」。

Q90. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

軒端の梅、いつしか咲き乱れ**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**下二段連用形「咲き乱れ」＋たり。存続で「咲き乱れている」。

Q91. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その挙措、まことに優雅**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「優雅」は漢語だが状態語幹として「優雅なり」で用いられ、語幹＋なりで形容動詞ナリ活用。「優雅である」。

Q92. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

これなむ、名にし負ふ逢坂の関**なる**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「関」＋なる（連体形、係助詞「なむ」の結び）。断定で「関である」。

Q93. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

沖の方に、舟漕ぐ**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**四段終止形「漕ぐ」＋なり。音・気配による推定で「舟を漕いでいるようだ」。

Q94. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

城のうちに、軍兵雲のごとく満ち**たり**。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 **解説：**四段連用形「満ち」＋たり。存続で「満ちている」。

Q95. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

その者、当時の関白**たり**し人なり。

答え：断定の助動詞「たり」 **解説：**体言「関白」＋たり（連用形、下に「し」）。断定で「関白であった人」。

Q96. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

池水鏡のごとくに静か**なり**。

答え：形容動詞ナリ活用 **解説：**「静か」は和語の状態語幹。語幹＋なり（終止形）で形容動詞ナリ活用。「静かである」。

Q97. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

あの僧は、高名の学僧**なり**。

答え：断定の助動詞「なり」 **解説：**体言「学僧」＋なり。断定で「学僧である」。

Q98. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

風に乗りて、楽の音聞こゆ**なり**。

答え：伝聞推定の助動詞「なり」 **解説：**下二段終止形「聞こゆ」＋なり。音による推定で「音楽が聞こえてくるようだ」。

Q99. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

文机に、書きさしの文置きたり。

答え：完了・存続の助動詞「たり」 解説：四段連用形「置き」＋たり。存続で「置いてある」。

Q100. 次の傍線部「なり／たり」を識別せよ。

千里の野、はるばると茫々たるけしきなり。

答え：形容動詞タリ活用 解説：「茫々」は漢語の語幹。語幹＋たる（連体形）で形容動詞タリ活用。「広々とした」。

採点振り返り

- 「なり」を間違えた問題：直前が和語の状態語幹＝形容動詞、体言・連体形＝断定、終止形＝伝聞推定。
- 「たり」を間違えた問題：直前が漢語の状態語幹＝形容動詞、連用形＝完了・存続、体言＝断定。
- 連用形「に」：「静かに」の「に」は形容動詞ナリ活用の連用形（格助詞ではない）。
- 間違えた問題は、「なり・たり」の直前一語の品詞に印をつけて解き直すと定着します。